

女性委員会セッション

テーマ

和の空間の魅力を探る……ふたたび

「魅力ある和の空間ガイドブックWEB版」の活用

パネルディスカッションコーディネーター…山中路代 | 連合会女性委員会 副委員長

パネリスト…岩崎美乃 | 北海道建築士会 近藤容子 | 青森県建築士会

近藤富美 | 福岡県建築士会 野口美保 | 広島県建築士会

運営 | 女性委員会

女性委員会では、日本の住まいの中で和の空間が無くなりつつあることを危惧し、「和の空間」をテーマに、魅力的なもの、これからの居住環境への示唆に富んでいるものを選んで紹介する「魅力ある和の空間ガイドブックWEB版」を作成。2018年9月に連合会女性委員会のホームページ上に公開した。昨年の埼玉大会に引き続き、和の魅力について発表した。

施設紹介

北海道の自然に呼応する日本家屋
[北海道] 相馬邸、清華亭

開拓の歴史と関わりが深い北海道。江戸末期に貿易港として開港した函館の街には、和洋折衷の歴史的建造物がひしめいている。和の空間の魅力は、不要なものをそぎ落としたシンプルな空間にある。日本人の侘び寂びの精神、四季の設えを楽しむことができる自在な空間、おもてなしの心。人が自然に寄り添い、時に戦いながらも自然素材を利用し、地域に合わせた工夫と暮らし方が見て取れる。

みちのくの和の空間を読み解く女性の視点
[青森県] 田中家住宅、新むつ旅館(元新興睦楼)

青森県は歴史・文化・気候風土・災害にも特徴がある津軽地方・南部地方の紹介となり、それぞれの建物の中で生き抜いてきた女性目線での調査報告となる。厳しい自然(豪雪)のなかでも安心して作業ができる建ぐみ、優しい光を北側や高窓から女性空間へ落とし込むことなど、使う人を思い手が加えられてきた。働く女性の健康や幸福を願って施した細やかな心遣いの意匠に感服させられる。

華やかな和の空間の魅力
[福岡県] 旧伊藤伝右衛門邸、
旧柳川藩主立花邸

今、旅館や料亭の和の空間は非日常を感じる特別な場となっている。今回は贅を尽くした華やかな和の空間の事例を取り上げた。部屋ごとに使う人のイメージに合わせた仕上げ、欄間、照明器具がデザインされ、繊細で優美な装飾を随所に見ることができる旧伊藤伝右衛門邸。幅いっぱい開口部から庭園を借景として取り込む旧柳川藩主立花邸は、現在も立花氏の子孫がホテル・レストランとして経営されている。

多岐にわたる和の表現
[広島県] 太田家住宅、耕三寺潮聲閣

広島中心部は被爆により多くの木造建築は失われた。しかし、そこを離れば瀬戸内海に面した海運拠点、酒造の建ち並ぶ古い町も各地に残っている。今回紹介された財産家であった造り酒屋の太田家住宅、実業家が母親のために建てた耕三寺潮聲閣は、資産を投じて建てられたが、様式も豪華さの趣向もまったく違う。理由はさまざまな要素が絡み合うからであり、その違いは多様性と捉える。すべての建物を残すことは困難だが、価値観や知識は皆で共有したい。

パネルディスカッション

セッションのテーマと北海道大会のテーマから3つのキーワードで意見交換を行った。

「1.和の空間の魅力」では、不要なものをそぎ落としたシンプルな空間、庭との関係や、やわらかな自然光、内外の曖昧な空間など和の空

間をどのような視点から見るかによっても感じ方がさまざまである。

「2.魅力ある和の空間の活用」では、地域の方や子どもたちの和の空間体験が大切、さらにファンの方やサポーターといった人と人とのつながりによって次世代に受け継がれていくのではないか。

「3.魅力ある和の空間を持つ建物と和の空間の波及」については、地域に古きよきものを残すということを住み手に伝える活動が必要、そして魅力ある和の空間を持つ建物は地域に広がり美しいまちなみをつくっていく。

また会場から、「大阪士会女性委員会の活動予定として掲載されている和の空間の見学会」や「ガイドブックの活用」の紹介をいただいた。今年度もWEB更新の予定がある。一般の方々にも広く知ってもらいたいと願う。

(松野範子/山梨県建築士会)



女性委員会セッション風景

日時…令和元年9月21日(土)

会場…函館アリーナ1F スタジオB

参加者…101名